

専門学校における障害のある学生への対応に関する アンケート調査 集計結果



一般社団法人

全国専門学校情報教育協会

Institute for Vocational College.
Information Technology Education

<https://www.invite.gr.jp>

専門学校における障害のある学生への対応 に関するアンケート調査

【調査の目的】

新型コロナウイルス渦中に専門学校において障害のある学生に対する具体的な対応について調査する。

【集計】

調査時期	令和2年5月29日～令和2年6月3日
依頼数	575 校
回答数	121 校
回答率	21.0 %

【留意点】

○この調査は、新型コロナウイルス渦中において専門学校が行った障害のある学生に対する合理的配慮やこれまでに行われて来た障害のある学生を受け入れるための具体的な体制整備を対象範囲とした。

○コメントは、回答者の入力内容を修正せずに記載した。

専門学校における障害のある学生への対応に関するアンケート調査

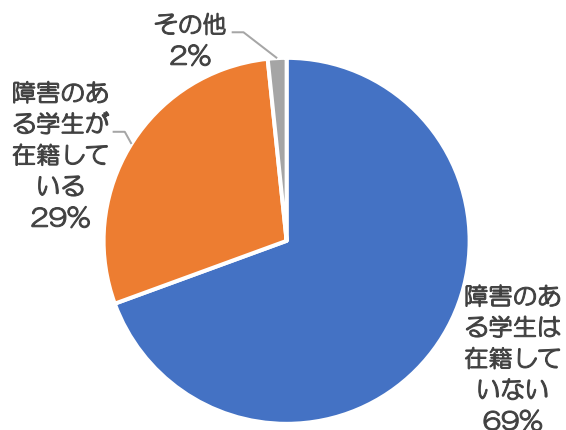
【受け入れ状況】

回答があった学校の中で障害のある学生の受け入れ状況は28.9%。

具体的な障害は、発達障害が54.8%と半数以上。

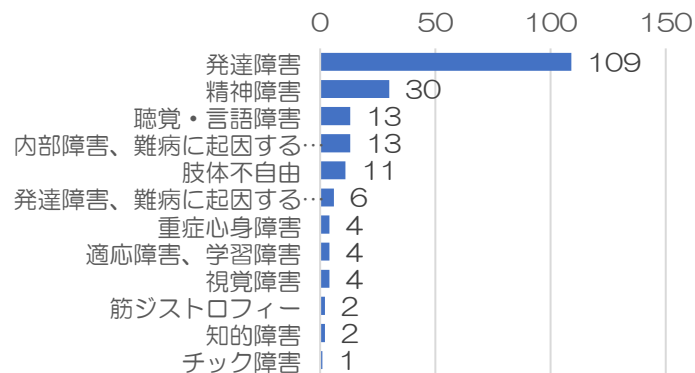
● 障害のある学生の受け入れ状況

回答	回答数	%
障害のある学生は在籍していない	84	69.4%
障害のある学生が在籍している	35	28.9%
その他	2	1.7%
合計	121	



● 在籍している学生の具体的な障害

障害の内容	人数	%
発達障害	109	54.8%
精神障害	30	15.1%
聴覚・言語障害	13	6.5%
内部障害、難病に起因する障害	13	6.5%
肢体不自由	11	5.5%
発達障害、難病に起因する障害	6	3.0%
重症心身障害	4	2.0%
適応障害、学習障害	4	2.0%
視覚障害	4	2.0%
筋ジストロフィー	2	1.0%
知的障害	2	1.0%
チック障害	1	0.5%
合計	199	



専門学校における障害のある学生への対応に関するアンケート調査

●在籍している障害のある学生への対応について（1）

【発達障害】

- ・臨床心理士による学生相談室の設置。
- ・学園内カウンセラーによるカウンセリング、課題ボリュームの調整、別室対応 など。
- ・保護者又や学生から申し出があった場合、学校生活上の注意点について話し合いを行う。
- ・具体的な指示を出す。
- ・理解した内容を確認する。
- ・諸連絡や細かな指示を、口頭ではなく文書にして伝える。
- ・特に他の学生と区別はしておりませんが、授業にて理解不足な部分は放課後個別対応を行ったり、学生全体に周知する場合は、表現に配慮して伝えるようにしています。
- ・特に学生・学生保護者・教員・クラス担任との連携を取り、指導をおこなっている。
- ・定期受診、定期面接、定期的カウンセリング受診、家族との連携の強化。
- ・学生サポート室にて、様々な悩み事を聴くなど配慮している。
- ・授業前後や実習前後の不安から来る質問に丁寧に答えたりしている。
- ・学生の状態に合わせた指導を行っています。
- ・他の学生よりも細かく指導している。
- ・学習の理解ができていないか確認する機会をそれぞれの授業で設けている。
- ・その都度気が付いたときに指導する。親との連携。受診を勧める（心療内科、認知行動療法）。
- ・補習を実施する。
- ・担任、臨床心理士による面談。

専門学校における障害のある学生への対応に関するアンケート調査

●在籍している障害のある学生への対応について（2）

【精神障害】

- ・スクールカウンセリング。
- ・本人が何度も確認をしてきたら、その都度対応しています。
- ・オンライン上のHRで状況を確認している。初回登校時に面談を行い、カウンセラー利用等を推奨する予定。
- ・臨床心理士による面談

【聴覚・言語障害】

- ・日常補聴器を使用しているが、口唇の動きと合わせて読み取っているらしく、コロナ対策で教員含めマスクをしているためわからないようです。対面はマスクをしていないため読み取れるようです。
- ・新入生のため未対応ですが、今後はマイクを使用するなどについて考えています。
- ・現状では通常対応にて、本人の理解が難しい場合に補足をしていた。
- ・前の席に座ってもらう。後ろから話しかけないなど。
- ・教室の机の位置を前の方にする。
- ・本人が補聴器を使用していて、特段の学校からの配慮無しで学修が出来る。

【内部障害、難病に起因する障害】

- ・身障者用トイレに、対象学生専用のロッカーを設置している。
- ・発作が起きないように常時注意している。
- ・欠席授業の事後フォロー。
- ・主治医への情報提供依頼、受診日などオンライン授業の取り入れ、エレベーターの使用など。

専門学校における障害のある学生への対応に関するアンケート調査

●在籍している障害のある学生への対応について（3）

【肢体不自由】

- ・下肢に障害があるが自力歩行は出来るので特段大きな対応はしていない。
- ・移動の際の介助。利用教室の配慮。
- ・建物がバリアフリーなので、教室のドア等が障害に対応しているように配慮するくらい。
- ・スロープ設置など校内のバリアフリー化。
- ・バリアフリー設備。
- ・施設設備等でバリアフリーを採用している。
- ・校舎のバリアフリー化、エレベーターの使用、座席の配慮。

【発達障害、難病に起因する障害】

- ・遠隔授業の試験実施。

【重症心身障害】

- ・特別な対応はございません。

【適応障害、学習障害】

- ・学科教員において常に情報共有し、特別な対応が必要な時以外は原則として他の学生と同様にしている。

専門学校における障害のある学生への対応に関するアンケート調査

●在籍している障害のある学生への対応について（2）

【視覚障害】

- ・ 掲示物の色調など配慮、座席の配慮、サングラス使用、拡大して見れる機材の使用。
- ・ 軽度の色覚異常のため現在のところはない。

【筋ジストロフィー】

- ・ 車椅子用トイレの設置、登校下校時のエレベーター補助、自動高さ調整用の机の設置など。

【知的障害】

- ・ 1対1で教えれば理解はしてくれるので、放課後等を用いて復習をする形をとっている。
- ・ 急な変化に対応するのが難しいため、事前に何か変わることがあれば伝えるようにしている。

【チック障害】

- ・ 現時点では特別な対応なく学校生活を送れています。

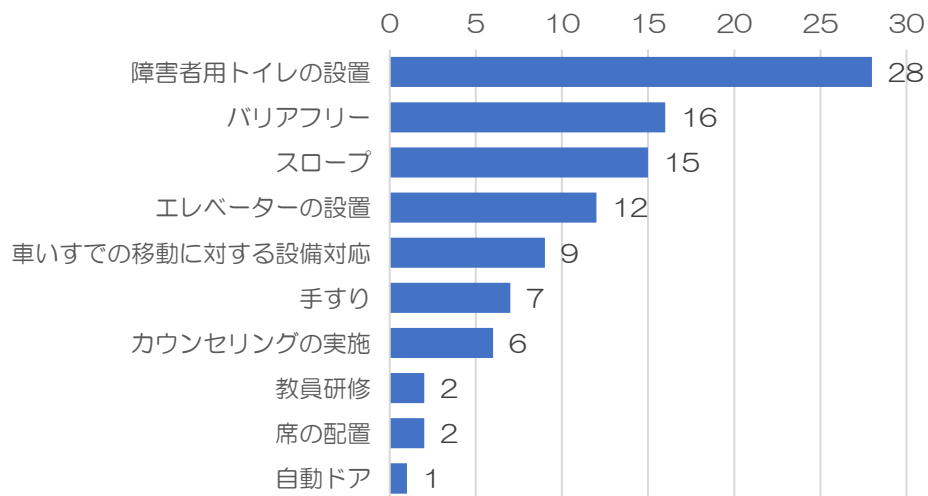
専門学校における障害のある学生への対応に関するアンケート調査

● 専門学校における障害のある学生受け入れ環境整備状況

【環境整備状況】

- ・ 環境整備は、トイレ（28）、バリアフリー（16）、スロープ（15）、エレベータ（12）等を整備している学校が多い。

対応の内容	件数
障害者用トイレの設置	28
バリアフリー	16
スロープ	15
エレベーターの設置	12
車いすでの移動に対する設備対応	9
手すり	7
カウンセリングの実施	6
教員研修	2
席の配置	2
自動ドア	1
合計	98



専門学校における障害のある学生への対応 に関するアンケート調査

● 遠隔授業実施に伴う、障害のある学生への対応（合理的配慮）の事例

【合理的配慮事例等】

- ・ 動画教材の文言を、書き出しソフトを用いて文書化したものを渡している。
- ・ クラスに入れない学生に対して、一部オンデマンド授業の実施。
- ・ コンピュータ技術者育成で実技中心の学校であるため、障害も来校を促しており遠隔事業は実施していない。
- ・ プリントを整理しやすいように、科目別ファイル準備、資料に番号を入れる、パワーポイント資料を開示して復習できるようにする。
- ・ 遠隔授業は事前指導を行い実施していたが、特に問題はなかった。
- ・ 可能であれば個別に対応 遠隔で対応が困難な場合は来校を促し対面で指導する。
- ・ 課題学習型遠隔授業を導入している。
- ・ 担任より、生徒が授業を理解できているかなどに関して適切なフォローを行っている。
- ・ 聴覚障害がある学生は、聞き取りが難しいかもしれないと思っている。
- ・ 聴覚障害のため対面授業であれば実施できていたが、遠隔授業を利用した機材からの音声では聞き取りにくい。またマスクをすることで口話の読み取りができないなどの恐れがある。

専門学校における障害のある学生への対応に関するアンケート調査

● 障害をもつ学生受け入れに関する課題（1）

- ・ コミュニケーション能力を向上させる方法や就職活動について。
- ・ エレベーター設備がないので、車いすを使用への対応が難しい場合がある。
- ・ エレベーターが狭く車いすでの利用がしにくい。
- ・ クラス全体から授業が遅れた場合、個別対応する教員の配置が難しい。
- ・ 医療系の学校のため、臨床実習などに支障が出るのではないかと危惧している。（病院側の受け入れ態勢など）
- ・ 遠隔授業時の聴力障害者への対応方法。
- ・ 学生自身がわかっていないときに個人に合わせた学習・指導方法を見出すことに時間がかかる。
- ・ 環境整備、教員の専門性、教員以外のアシスタント人材。
- ・ 個別的対応できる人員の不足。
- ・ 校舎や教室などの物的配慮が不十分。
- ・ 校舎全体が狭く、またトイレ内も狭いため、車いす用トイレの設置が困難。
- ・ 校舎の構造への配慮。
- ・ 講義などについては机の位置など配慮したりしているが、技術習得、実習に関しては学生自身にどのようにしたらできるか、考えてもらい教員が助言などのサポートをしている。
- ・ 合理的配慮について、教職員の知識の共有と関係する職員の研修。
- ・ 施設設備関係の改善を必要とするようなことは中々難しいこともある。
- ・ 支援する助手や設備等の金銭的負担が賄えない。
- ・ 手帳はないが、発達、精神的要因を抱えている学生がいる。保護者の理解、専門学校として方向性を示すことができる専門職がない。

専門学校における障害のある学生への対応に関するアンケート調査

● 障害をもつ学生受け入れに関する課題（2）

- ・ 障害がある学生とは1対1でないと学習が進まないため、人員不足を感じるところがある。
- ・ 全館設備が障害者対応しているわけではない。
- ・ 入学前の時点で障害の状態や学校側への要望が明確な場合は、学校側で対応可能な範囲を説明し双方納得の上入学いただいている。しかし、障害を明らかにしたくないという方もいるため、入学後に対応が後手にまわる可能性もある。特に発達障害など一見して障害の有無がわからないケース等。
- ・ 発達障害に詳しい専門のカウンセラーを配置していない。
- ・ 発達障害の学生などは、学習に波があるのでその指導が大変な時がある。同一教室で学習する場合には、講師は特に注意して授業をすすめているため他の学生からクレームが出る事がある。
- ・ 発達障害の場合、ケースバイケースの対応が必要になるため、明確な対処方法は難しい。
- ・ 保護者の要望のエスカレートによるクラス担任への負担
- ・ 視覚障害がある学生への対応について、点字仕様のテキストや表示が整備されていない。
- ・ 予算、マンパワー（人材と予算確保）に問題がある。
- ・ 予算が限られており、環境の整備を進めることは難しい。
- ・ 臨地実習体制をどのようにとるのが課題です。
- ・ 入学前に学校として出来ることと出来ないことを事前に伝えており特に課題はない。
- ・ 校舎改修の際に、できる限り障壁を除く配慮をしたかったが、予算等の関係上出来なかった。